

「会津をハイキング～沼田街道を歩く」 勝俣 隆

只見川沿いの福島県三島町を通る「沼田街道」のハイキングイベントにお声をかけていただいた。山深い会津には他県を繋ぐ峠道や旧道が何本もあり、新潟県三条市から只見を結ぶ「八十里越」はいつか歩いてみたいルートだ。

沼田街道は群馬県沼田市から会津若松を繋いでいる。江戸時代には「巡見使の道」として使われていたらしい。

旧道によくあることで、沼田街道も県境に近づくと舗装道路が消えてしまう。車が通れないような赤みちでもハイキングコースならさいてきて、素晴らしい道が多い。大好きだ、旧道。

行程は、会津宮下で集合して駅を3つ戻り、会津滝谷から山を登り集落を抜けて再び会津宮下に戻る。

地図を見ると眺めの良いところが記載されていて、ひねくれ者のわたしはネタバラシされたようで、少し寂しい気がする。美しい景色はサプライズが嬉しい。

沼田街道に入ると前日の雨にも関わらず草刈りされていて歩きやすい。聞くと、この会を主催されている「まちづくりみしま」の佐久間さんと、滝谷集落の目黒さんが草刈りをされているそうだ。不思議なもので、その道が好きな人がメンテナンスしているトレイルは歩いてみると愛を感じる。

そう言えば、沼田街道に入る手前で道端に落ちている缶を見つけた参加者がごみ拾いを始めると、ごみ拾い大会が始まった。みんなニコニコしながら楽しそうに集めた缶をゴミ袋に入れていた。

街道をそれで、山城の巖谷城城郭を目指して鎖のついた急な斜面をよじ登る。槍ヶ岳気分だ。

頂上は広いものの、景色はほとんどない。木々の隙間からは眼下に滝谷(たきや)の集落が覗けた。

「ここから降りられたらいいですね」と漏らす。

「懸垂下降でしか降りられません」と言われ、それは困るので来た道を引き返す。

滝谷の集落に降りた。屹立する山の中を川が流れる。通り沿いに蔵の建つ町並みは、豊かさを表しているようだ。屋根の色は青か赤で統一され、町の景観は均整が取れている。

滝谷の集落には宿場町の面影がある。昔の地図には宿屋さんらしき屋号がいくつもあった。

集落に入ると、地元のお爺さんを囲んで、参加者の女性二人が肩を叩いていた。お爺さんは編み組のお師匠さんで、二人は編み組を習ったことが縁で三島町に移住されてきたようだ。仲が良くて素敵な光景。

ちょっと立ち寄ったらその町が好きになり移住してしまう。恐ろしい、三島町。わたしも魂を抜かれないよう気をつけねば。

公民館でお昼をいただき、集落を抜けて丸山城本丸を目指す。

明るい南面でると秋の日差しがぽかぽかで昼寝したくなる。一人なら昼寝するのになあ、と朴葉が積もったトレイルを進む。

本丸から眺める町並みが午後の柔らかい光に照らされている。山々が立ち上がり、その隙間を流れるにしてはすいぶんと大きな只見川がおおらかに流れている。

本丸では先に来た地元の方がお昼を食べていて、話が弾んでいる。みんな和やかな雰囲気でおしゃべりをしている。地元の人が山を歩く。みんな自分の町の自然が好きなんだなあ、

本丸をあとにして、ビューポイントを過ぎて、ふたたび集落に入る。

集落歩きは楽しい。地元の方もハイキング会を理解されているようで、挨拶をすると「ああ、歩くあれかい」と頷いてくれる。

町外れ。

ハロウィンの仮装をしたちびっこたちを発見。トリック＆トリートをしていた。いたずらされるのも困るが、こちらはカリンのど飴とお煎餅しかない。

「これで良い？」と聞くと、「ウン」と言う。弟くんにもお煎餅を渡すと恥ずかしいのか、そっぽを向いてしまった。可愛らしい。優しいおばけ。

宮下に戻り「アーチ3兄弟」と呼ばれる只見線の撮影スポットに立ち寄る。ちょうど、列車が通り抜ける時間だそうで、撮影に来ている方々に混ざって横で一枚。

町の自慢の景色も、トリック＆トリートには適うまい。

スタート地点の駅に戻り、締めの挨拶が終わると、日暮れ前に帰ろうかと、三々五々で参加者が減ってゆく。山歩きが終わってさみしいなんてすいぶんと久しぶり。

三島町観光交流館の「からんころん」でコーヒーを飲んで、もう少し嗜みしめよう。

館内には先ほどの参加者の幾人かがコーヒーを飲んでいた。みんな余韻が味わいたいのですね。

コーヒーを頼むと、お茶請けに大根のお漬物を頂いた。柔らかい照明のしたで、しばしまったりする。

今回、ガイドをしてくれた若い男性もいた。彼は只見線が好きで三島町に通い、列車の撮影時間の合間に「からんころん」で過ごしていたところ、「そんなに好きなら住んじゃえばいいのに」と言われ、移住してしまったらしい。そんなこと言われたら本気にしてしまうかもしれない。

旅人にも居場所を与えてくれる懐の深さが三島町のなによりの魅力に思えた。

バーモントを思い出す。

アパラチアントレイルを歩いたときも、のどかなバーモントの町に降りて過ごすたびに、バーモント人の人柄に惹かれた。人々は穏やかで、地場の野菜や果物が美味しかった。

昨年は5年ぶりにバーモントを訪れてバーモント・ロングトレイルを歩き、バーモントの魅力を調べていくうちに、バーモント人のバーモント愛に気がつく。その土地を愛している人が作るトレイルを歩くのは幸せだ。

トレイルの魅力が、道中のビューポイントが生み出すものなら、アパラチアントレイルなんて魅力度が多くはない。森がずっと続き、頂上に登っても、景色が全くないことは多々ある。ビスタポイントにも何度も裏切られたことか。そして、打ちひしがれたわたしを励ましてくれたのは、町の人々との他愛もないおしゃべりだった。

どんなに美しいところを歩こうとも、町の人が愛して、町の人には会える道に勝るものはない。長く歩いてきて、この町で過ごせたらどんな出会いがあるのだろう。わたしなら一日、二日と滞在を伸ばしてしまいそうだ。

三島町には広葉樹と針葉樹が織りなす豊かな色合いもある。さらに只見川や只見線が作り出す景観も見事だ。

わたしは何度も「ずるいなあ」と口にしていたらしい。景色も良くて、人も素晴らしい、集落を繋ぐハイキングコースもある。ほんと、ずるいったら。

次の旅を考える。

三条から只見を抜ける八十里越えを歩いて三島町に出たら素敵だろう。

もうじき冬が来る。

雪に包まれた奥会津に思いを馳せて、冬も素敵だろうな、なんて危険な思想に駆られてしまう。あぶないあぶない。

おしまい

歩かれたい方は三島町観光協会の「からんころん」さんに立ち寄ると良いでしょう。うっかりすると、移住することになるかもしれませんよ。

勝俣さん所属「ハイカーズデポ」Facebook投稿記事より引用させていただきました。